

# 初めて目にした現実

奥原 彩葉

コロナウイルスの影響で大学に通えず、入学式も無く、私はやるせない日々を過ごしていました。空虚な気持ちを抱えていた日々の中、何かしないと大学一年があつという間に終わってしまうと思い、得意だった英語をいかせる仕事をしてみたいと思った最中、JFC ネットワークさんに出会いました。フィリピンの知識は高校での世界史で学んだことのみでしたし、中高では自分と向き合うことで精一杯でほかの人々の人権について深く考えたことはありませんでした。そんな中、受験も終わり、身近な人でなくても周りの人々のことを考えられる時間を作りたい、自分の知らない世界を見てみたい、そう思い気合を入れてインターンを始めた初日、これから関わっていく世界がどれだけ自分と違っているか想像を超える現実を目にし、自分の仕事は生半可な気持ちで取り組んではいけないことを実感しました。

インターンの主な内容である翻訳の作業では、日本人の父親に認知してもらうために子どもの書いた英語の手紙を日本語に翻訳するという事も多くありました。言語が異なってもいかに子どもの気持ちをお父さんに伝えればよいのか、そのためには手紙を書いたJFCの気持ちをきちんと理解してあげることが必要でした。しかし、そもそも自分の存在を産みの親から認められないというのはどのようなことなのか、私は想像することもできませんでした。何の過不足もない家族に囲まれて生きてきた私にとって、JFCの子どもたちの苦しさは目で見ることではできても、実際に感じることはどうしてもできませんでした。わかってあげたくても完全にわかってあげることができない、そういった葛藤の中、目にした数々のJFCのケースはどれも印象深く決して忘れてはいけないものだと感じました。手紙のほかにも、幼いJFCの子が父親へ描いた絵は心打たれました。本来ならば毎日一緒に過ごしていたはずの父親と自分の姿を描いたその子は、いったいどんな気持ちでその絵を描いていたか、考えると胸が苦しくなります。

子どもは親を選ぶことができません。またそれに加え自分で望んで生まれてきたわけでもないのに、どうして彼らが悲しくつらい思いをしなければならないのか。考えたところで何の解決策も思いつかず、やるせない思いにかられ、自分の無力さを感じる時もありました。しかしスタッフの方々の、翻訳はとても地道な作業ではあるけれど、この作業があるおかげで子どもたちは救われているんだよ、という言葉に励みに最後まで全力で向き合うことができました。コロナウイルスの影響で相談ケースも減り、直接JFCの子どもたちと触れ合う機会はなかったけれど、私が目にした子どもたちの苦しみの数だけ彼らに良いことがあれば良いなと強く願っています。

インターンを終えた今、私はここでの経験や自分が目にしたケースを周りに伝えてこうと思います。私が目にしたJFCの子どもたちの生きる世界はもう過去のことになってしまったけれど、今この瞬間にも悲しい思いをしている子どもたちは大勢いる。そしてそれを知らない人も大勢いる。その状況を少しでも無くしていくためにJFCネットワークさんでの貴重な体験、目にしたものを身の回りの人に伝えていきたいです。たとえそれが自己満

足だとしても私は彼らの存在を無いものにはしたくないと強く思います。

最後に、JFC ネットワークのスタッフの皆様、特に市原さんと伊藤さんのおかげでこのような貴重な経験を得ることができました。大変感謝しております。高校や大学の話で盛り上がりだったり、自信になるような言葉をかけてくださったり、とても居心地の良く、あたたかい楽しい時間を過ごすことができました。これからも体育会系頭脳で頑張ります。(笑) またお手伝いできることがあれば是非よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

今年の8-9月の夏休み期間中に大学1年生の学生さん2人がインターンをして下さいました。前回ご紹介した尾崎くんも今回ご紹介した奥原さんも2人ともとても優秀で本当に助かりました。ありがとうございました。大学生活はこれまで以上に自分のやりたいことに挑戦できる時期です。大学生活を充実したものにして下さいね。応援しています♪

支援者の皆様方へ

こんにちは。平和で喜びと愛に満ちた日でありますように！

自己紹介をさせていただきますか。私は、RGSのシスター、マリー・ルズミンダ・エルムバリン・オブニマガ (Sr. Luzminda Elumbaring Obnimaga) と申します。グッドシェパードの慈善の聖母の会 (Our Lady of Charity of the Good Shepherd Congregation) の正式な一員です。私たちの会は1835年にフランスで国際的な会として設立致しました。私はフィリピン・日本部会に属しています。私は、シスター、デイジー・スペラブル (Sr. Daisy Superable) の後任として、ダバオのRGS-COWのプログラムコーディネーターとして配属致しました。2020年9月28日から任務を担っております。このような状況下において、私たちのJFCクライアントのために誠実にご支援下さりまして心より感謝いたします。皆様方がJFCの子どもたちに関心を持ちづけて下さるお陰で、時として、子どもたちは絶望感に苛まれ、希望を失いかけることもあります。子どもたちが自分たちの権利のためにたたかい続けられるよう勇気づけられています。皆様方お一人おひとりのご支援がJFCの子どもたちの生活の向上につながっていることを心より感謝申し上げます。神から皆様方が百倍もの報いを得られますように。皆様方に神のご加護がありますようお祈り申し上げます。

シスター、ミンダ (Sr. Minda, RGS)

ダバオのRGS-COWでケースを受けて下さっている担当のシスターが代わりましたので皆さまにご挨拶頂きました。よろしく願いいたします。

